

大阪キタ・ミナミと並ぶ鉄道結節点である阿倍野・天王寺のターミナルに建てられた高さ300mの日本一の超高層複合ビルである。『はたらく』場所としてのキタ（梅田）、『あそぶ』場所としてのミナミ（難波）とも異なる『くらす』要素の強い場所として阿倍野・天王寺を捉え、沿線価値の向上を目指すという事業企画方針に基づき、百貨店・オフィス・ホテル・美術館など多様な機能の複合体として新たな立体都市を構成している。建物構成としては、百貨店・オフィス・ホテルの異なる用途ごとに最適な架構を採用し、それらに三つのポリウムとして積み重ね、その境目に大きなトラス階を設けることで構造的解決をし、それぞれの用途に合わせて制振装置を設置することで高い剛性と制振性を確保している。

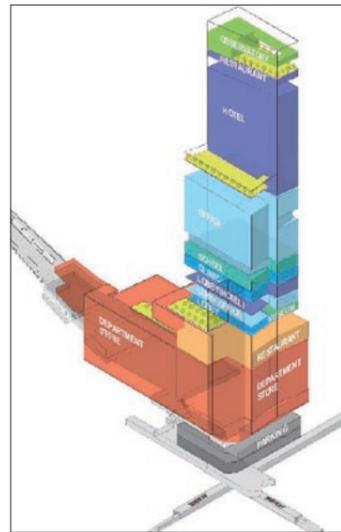
この地上80m・二〇〇m・三〇〇mのトラス階によって生まれる立体ジャンクションにより、用途の異なる高層階へのアクセスが明快になっていると共に、併せて設けられた屋上庭園により立体的な緑のネットワークを構成し、素晴らしい眺望と憩いの場を提供している。

外装デザインは、大阪都心の太閤グリッドと上町台地との軸線のズレを巧みに取り入れると共に、建物構成を明快に表現するトラス階を表出させることにより、単調で無機質になりがちな超高層ガラスカーテンウォールに変化を持たせ、地域のランドマークとしての特徴を持たせている。

環境面においても最先端のテクノロジーが結集されており、自然を生かしながら快適性を確保した上でCO<sub>2</sub>マイナス三六%を実現している。

また、一日の乗降客が七〇万人というターミナルエリア、敷地境界一杯の建物で、更に大深度地下

選評



「あべのハルカス」は、大阪阿部野橋駅直上に建設された、高さ300mの日本一高い超高層ビルである。阿倍野・天王寺を、梅田や難波と並ぶ新たな個性を持つ拠点とするため、百貨店やオフィス、ホテル、美術館などの都市的な機能が高密度に積層する。

- 展望台
- ホテル
- オフィス
- 美術館
- 百貨店
- 駐車場

西側外観。外装デザインは真北を向いた街路割りと上町台地との南北軸のズレを取り入れ、建物の西面と高層部では10度偏向する。



あべのハルカス



BCS賞は、建築の事業企画・計画・設計・施工、環境とともに、供用開始後1年以上にわたる建築物の運用・維持管理等を含めた総合評価に基づいて選考し、建築主・設計者・施工者の三者を表彰する建築賞です。この賞は、1960年にはじまり2015年で56回を数えます。

< 2015年 第56回 BCS賞受賞作品 >

あべのハルカス 大阪木材仲買会館 北九州市立戸畑図書館 サイエンスヒルズこまつ JPタワー 静岡市清水文化会館 マリナート 資生堂銀座ビル Junko Fukutake Hall ダイビル本館・中之島四季の丘 はあと保育園 明治大学創立130周年記念和泉図書館 ROKI Global Innovation Center -ROGIC- [特別賞] 上州富岡駅

# 建築主

## 都市機能を集積した、日本一の高さ より 300mの複合ビル「あべのハルカス」

阿倍野・天王寺地区は交通の結節点であり、文化資源にも恵まれたポテンシャルの高い地域である。あべのハルカスは、そのような地域の特徴を活かしつつ、先進的な都市機能を集積した「立体都市」として地域社会に豊かな生活空間をご提供していくことを目指している。また、あべのハルカスは、近鉄グループの4つのコア事業、運輸事業、不動産事業、流通事業、ホテル・レジャー事業を結集し

た象徴的なプロジェクトでもある。さらに、高さ300m、日本一の高層ビルという、その話題性からマスコミにも数多く取り上げられ、開業から2年近くを経過した今も海外を含め多くの方々にご来館いただいている。多種多様な来訪者により地域が活性化し成長していくことを期待するとともに、今後とも地域の方々と協同して運営していくことによって、都市の発展に寄与してまいりたい。



近鉄不動産株式会社  
アセット事業本部  
ハルカス運営部 部長  
**渡部 友行**  
Tomoyuki Watanabe



様々な活動にアクセス可能なスカイロビー。

# 設計者

## より

### 上町台地とランドマーク



株式会社竹中工務店  
大阪本店  
設計部 設計第6部長  
**原田 哲夫**  
Tetsuo Harada

あべのハルカスの建つ阿倍野は、大阪のほかの市街地とは違う空気感を持っている。その不思議な空気感は上町台地に由来する。この空気感が設計をはじめににあたっての最初の手がかりであった。高低差にして15mあまりの段差が、沖積平野に位置する梅田・難波と阿倍野に決定的な違いを生み出している、古来よりこの台地に沿って大阪を代表するランドマークが築かれてきた。この大阪起源の

地に超高層ビルを建設し、大阪の活性化と沿線価値の向上に寄与するという事業主の想いを設計者・施工者をはじめ多くの関係者が共有し、地域に親しまれるランドマークを完成させることができた。多くの方々に感謝するとともに、多様な活動の集積と建築・都市・自然が接続することで実現する「超高層密集都市」という概念が、超成熟期を迎える日本の活性化に寄与することができればと思う。

三〇〇、高さ三〇〇の超高層ビルを僅か五〇カ月という短工期で、安全・品質・精度を確保した施工を行なうために、基本段階から建設・研究開発部門の協業によるゼネコンならではの高いエンジニアリング力・施工力を生かした一體的な取組みも高く評価された。かつて、村野藤吾氏らの設計による阿部野橋ターミナル旧本館は、その意匠性と歴史・文化性により街と有機的に融合していた。最先端のテクノロジーにより生み出されたこのランドマークが、今後、天王寺公園のオープンスペースの自然とバランスを取り、周辺街区との連携により難波宮跡・四天王寺・熊野街道に代表される大阪の歴史と文化を象徴する上町台地の新たな『都市核』として、まちづくりの重要な役割を果たす可能性が高く評価された。

【選考委員】  
佐藤滋・細田雅春・栗山茂樹

# 施工者

## より 想いをひとつに日本一の高さへの挑戦

あべのハルカスの建設は、更地にビルを建てるのとは異なり、難易度の高い多くの課題があった。駅の利用者動線を確保し、既存百貨店の営業に支障がないように工事ステップを構築し安全に施工すること、5本の鉄道が近接する中、地下30mを超える大深度の躯体を構築すること、さらに交通事情により搬入は1カ所に限定され、かつ建物が敷地一杯に建つ中、最適なロジスティックを構築する

こと。このような環境において、日本一の高さとなる建物を安全に最短期で施工することが求められた。生産部門は、プロジェクトのスタートから設計部門と協業し、多角的な検討により最適な課題解決を導き出した。各事業主、設計者、施工者、協力会社が一体となったコンカレント体制により、8年に及ぶ複雑な工程を厳密に管理し「日本一のビル」を狙い通り実現させることができた。



株式会社竹中工務店  
執行役員  
総括作業所長  
**滝山 和生**  
Kazuo Akiyama



オフィス階の吹抜け。吹抜けを介して光・空気・視線が通う。



百貨店の吹抜け。



ハルカス300(上)や16階庭園(下)からは大阪が一望でき、新たな観光スポットとなる。

### 計画概要

建築主：近鉄グループホールディングス(株)

設計者：(株)竹中工務店 / Pelli Clarke Pelli Architects / (株)日本設計 / (株)観光企画設計社 / (株)近創 / (株)インフィクス

施工者：(株)竹中工務店 / (株)奥村組 / (株)大林組 / 大日本土木(株) / (株)銭高組

所在地：大阪府大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43  
竣工日：2014年3月17日

敷地面積：28,738㎡  
建築面積：25,013㎡  
延床面積：353,393㎡  
階数：地上60階、地下5階、塔屋1階

構造：鉄骨造、鉄骨鉄筋コンクリート造